令和８年８月22日

介良地区
地区別事前復興まちづくり計画
ワークショップ資料

目　次

ワークショップの進め方＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P2

発災から復興まちづくりの流れ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P4

事前復興まちづくり計画とは＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P5

地区の現状と災害リスク等＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P9

ワーク１：介良のいいところ残したいもの、
普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。＿P12

津波浸水深と復興の種類の関係性＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P13
復興パターンの概要説明

ワーク２：復興パターンについて、意見を共有しましょう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P17

ワーク３：楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P18

次回開催のご案内＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿P19

高知市　防災対策部 防災政策課

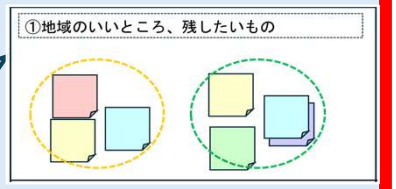
ワークショップの進め方（全体）

第１回ワークショップ（計100分）

・事前復興まちづくり計画の目的
・地区の現状と課題を説明　（15分）

ワーク１　地区のいいところ・残したいもの
困っていること　（25分）

Point
被災後の「ビジョン=目指すべき姿」へつなげる



・復興パターンの概要説明　（10分）

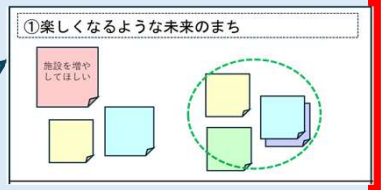
ワーク２　復興パターンについて感想　（25分）

Point
復興パターンに対する意見を述べてもらい
第2回目に修正案を提示



ワーク３　楽しくなるような未来のまちを想像する　（20分）

Point
ゾーニングに対する意見を引き出す



・まとめ（5分）

目標　自分の地区の特徴を知ってもらい、復興パターンの意見をもらう

第２回ワークショップ（計100分）

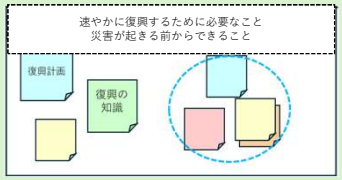
・第1回ワークショップ振り返り
・最終復興パターン案の提示
→ 意見交換１　（40分）

・目指すべき姿(案)の提示
→ 意見交換１　（20分発表込み）

ワーク４　速やかに復興するために必要なこと

ワーク5　災害が起きる前からできること（30分発表込み）

Point
・被災後の自立再建を意識してもらう
・復興でのすべきことを知ってもらい復興中の活力につなげる
・防災意識の向上
・地域での防災活動の啓発



・まとめ(10分)

目標　復興ビジョン、修正復興パターンの取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進めれるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!



被災後

被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



○本日のワークショップの進め方

①事前復興まちづくり計画の目的
　地区の現状と課題（10:00～10:15）





②ワーク１：**介良地区のいいところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて意見を共有しましょう。**（10:15～10:40）





③復興パターンの概要説明（10:40～10:50）

④ワーク２：**復興パターンについて意見を共有しましょう。**

⑤ワーク３：**楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。**（10:50～11:35）

⑥まとめ（11:35～11:40）





発災から復興まちづくりまでの流れ

発災　（直後）



避難・避難所（直後～数か月）

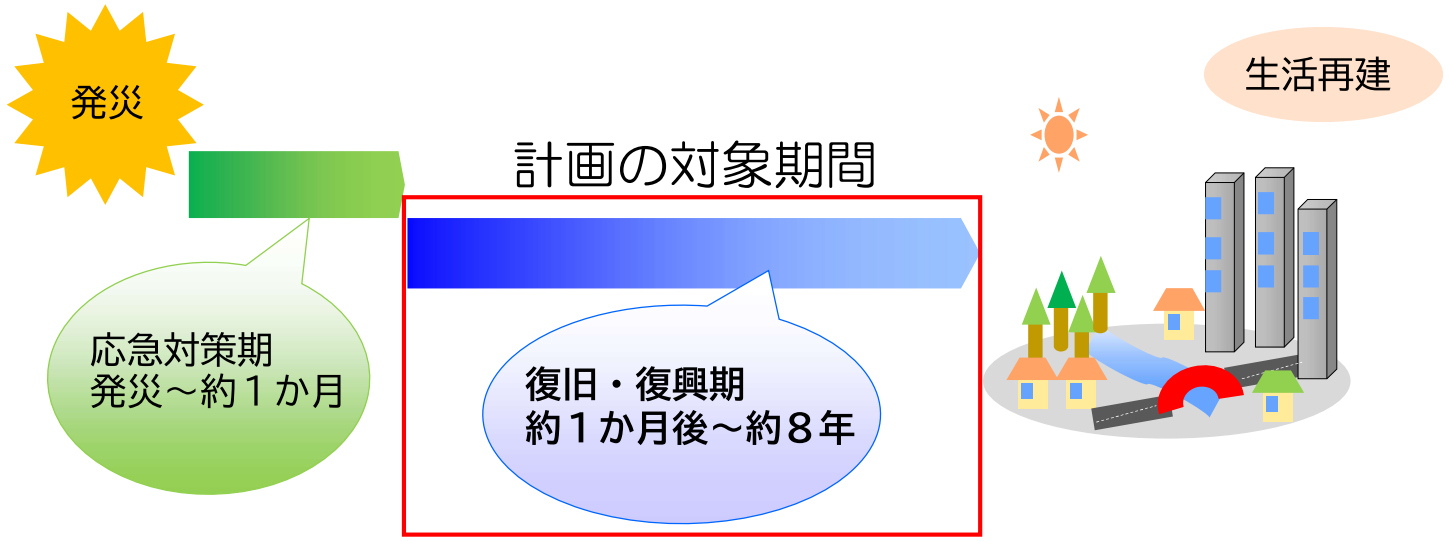




復興まちづくり検討
（数か月～）



復興までの目標を約８年とし、本計画の対象期間は、
発災から約１か月以降の「復旧・復興期」



事前復興まちづくり計画とは

被災前に作成

高知市

事前復興まちづくり計画

・復興基本方針
・地区別事前復興まちづくり計画
など

地域の方々の想い

被災状況に応じ速やかに策定

地域の方々の意向

被災後に作成

高知市

復興計画

・復興計画の区域
・復興に関しての基本事項
など

※大規模災害からの復興に関する法律



［大規模災害からの復興に関する法律に基づく復興計画　作成マニュアル　抜粋］

復興計画は、特定大規模災害による被害を受けた地域の復興に向けたまちづくり・地域づくりのための計画として地域の様々な意見を考慮して作成するものである。

地区別事前復興まちづくり計画とは

地域ごとの特性やリスクに応じて、
具体的な復興まちづくりの方針等を取りまとめたもの

何を考えるの？

①土地利用　　②復興の仕方　など

※復興パターンを確定させるものではない

どうやって進めるの？

市で作ったたたき台を基に、まちのみんなで
話し合おう！

次世代へバトンタッチ

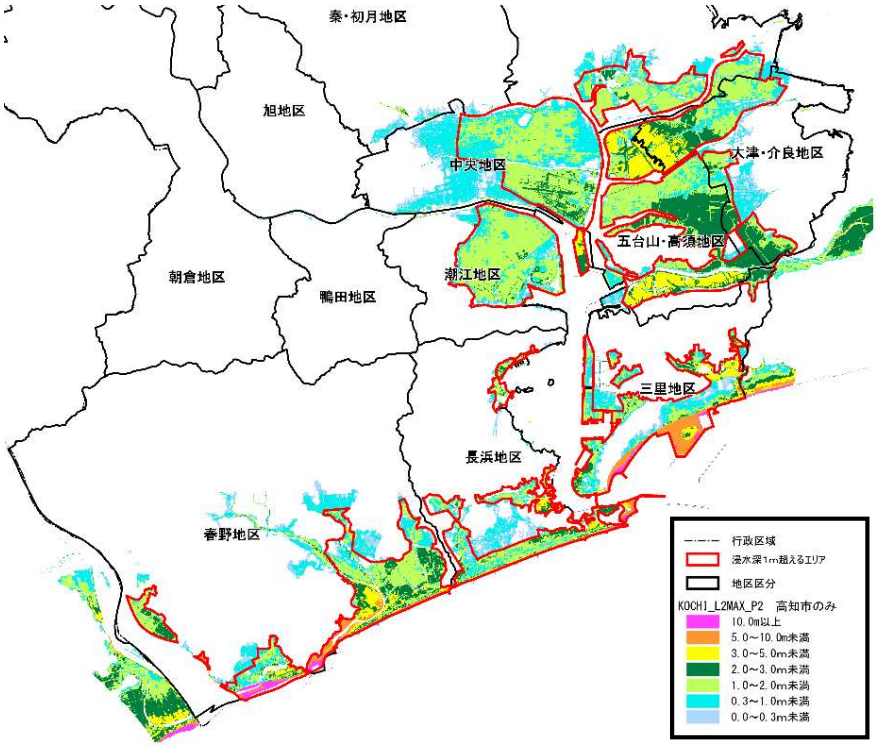




＜対象地区及び対象区域＞

高知県が令和６年５月に公表した新しい津波浸水シミュレーションを基に、計画策定の対象となる地区を決定。

中央、潮江、長浜、三里、春野、五台山・高須、
大津・介良、布師田・一宮



復興まちづくりの事例



狭い道が多い

津波から避難できる
高い建物が少ない



被災したまちを単に元の姿に戻すのではなく、被災前に抱えていた課題や問題点を整理・改善することで、より良い復興（ビルド・バック・ベター）の実現が可能となる。

①避難路となる広い道路の整備



②津波避難ビルとなる市営住宅の整備



③河川の景観を生かした観光･にぎわい拠点の整備



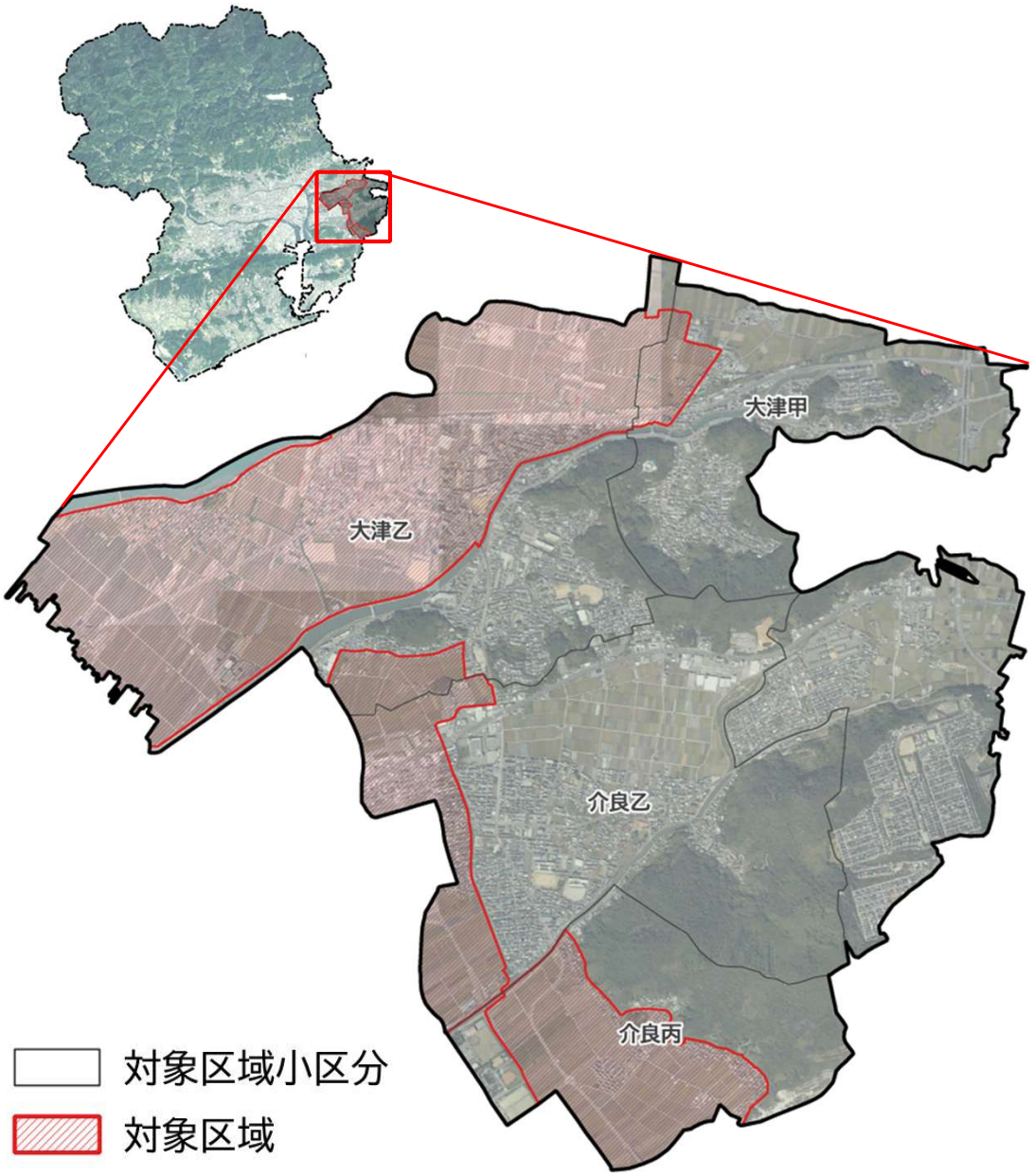
想定される災害及び復興対策

想定される災害	復興対策(面的な被害が生じた場合)
津波：最大クラス(M9.1)の津波を想定。内陸部１～２ｍ、沿岸部は２～５ｍ。	津波浸水深に応じ、地域特性や被害特性をふまえた復興パターン
揺れ：震度６から７による被害が想定。	原則、現地再建（建物築年代や道路事情に応じ区画整理事業等）
液状化：面的な液状化の恐れがある地域が分布。	原則、現地再建（被災状況に応じ宅地液状化防止事業等）
土砂崩れ：揺れにより土砂崩れが発生する可能性。	現地再建、被害の恐れが残る場合移転等
火災：木造密集地域では火災が広がる可能性。	現地再建、建物耐火性向上消防活動円滑化のための道路等基盤の整備



【大津・介良地区の現状】

➢ 【地区の位置】



人口

➢ 人口（令和７年４月時点）
　総数　　22,198人（６５歳以上 6,487人）
　対象区域　4,879人（６５歳以上 1,427人）
➢ 人口減少率・高齢化率ともに市平均よりやや低い

土地利用

➢ 大津介良地区は北側に国分川、南側に舟入川が広がっており、周りには高天ヶ原山などが存在
➢ 地域全体が国分川や舟入川などにより形成された沖積平野に位置し、地域西部の多くがゼロメートル地帯

【大津地区】
西側に農地が広がり、東部は県道374号、国道32号を軸として住宅地や食品工業団地など産業が発展

【介良地区】
農地と住宅を中心とする市街地が混在

産業

➢ 大津地区の食品工業団地等の工業、米作を中心とした農業が展開
➢ 北側に大津バイパス、南側に南国バイパスという幹線道路が東西方向に走っており、両バイパス沿いには商業・工業施設が立地している

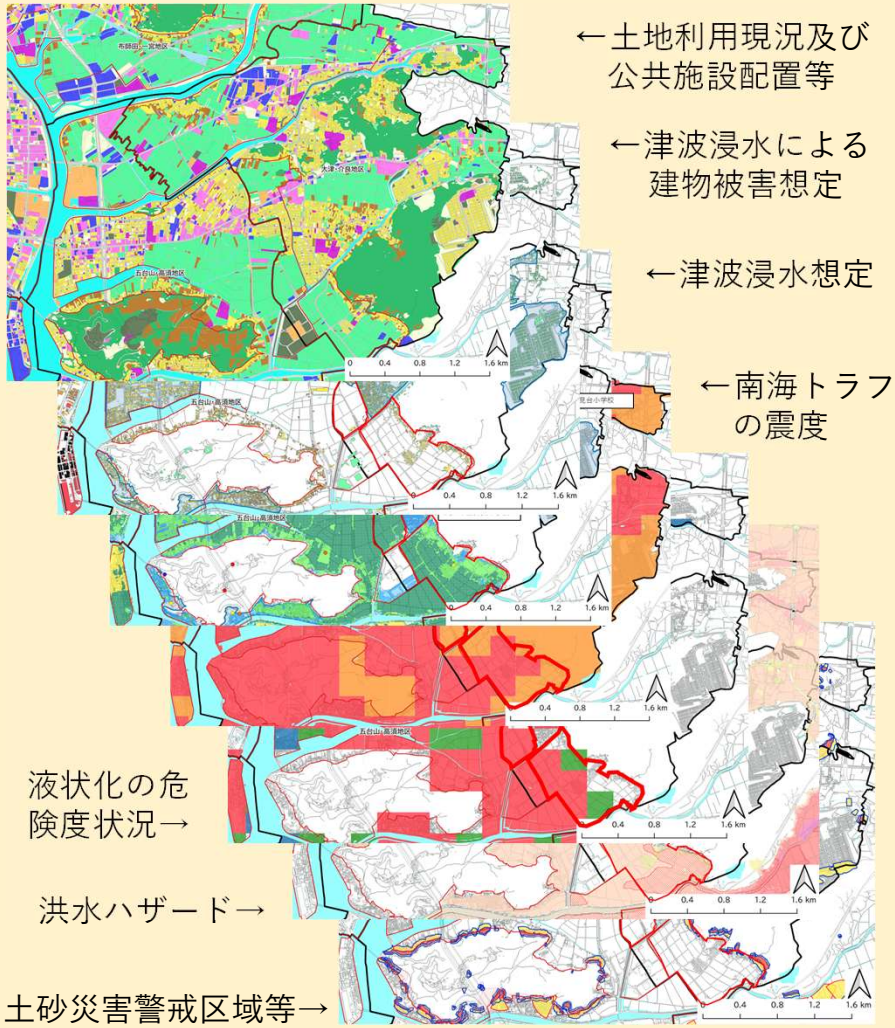
文化

➢ 田辺島城跡(福留隼人神社)が国分川沿いの集落部に隣接して立地するほか、弥生時代から中世にかけての遺物が散布する介良遺跡など

【災害リスク】

データを重ね合わせる

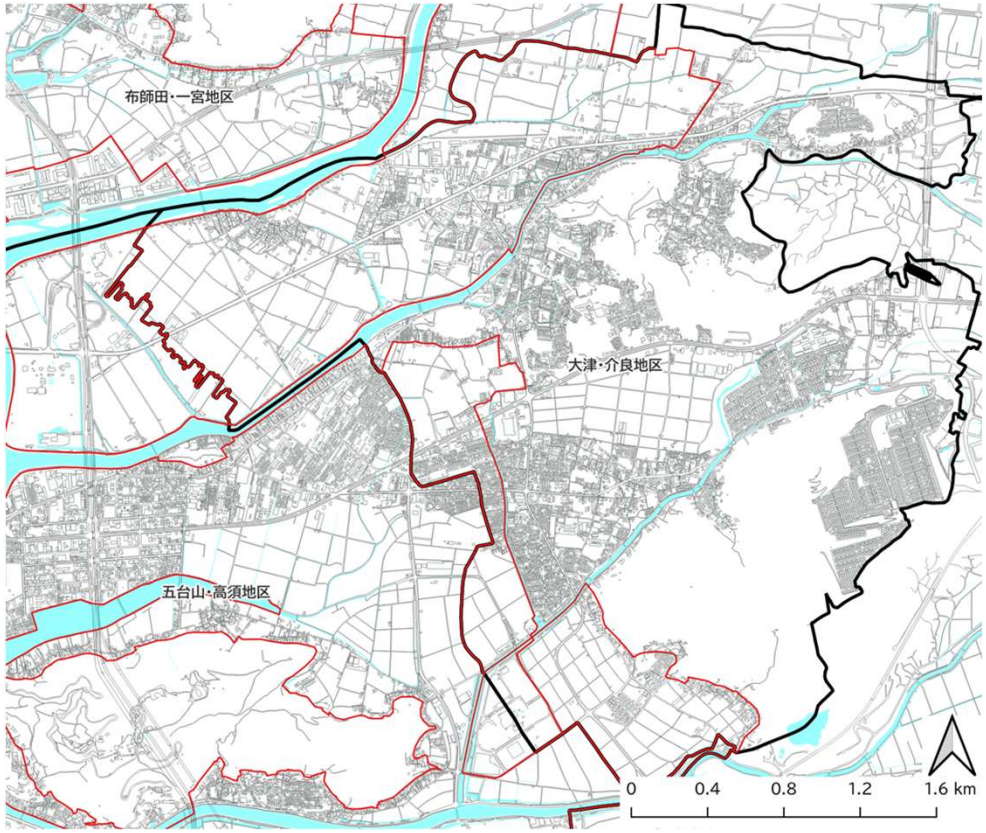
＜大津・介良地区の災害リスク等＞



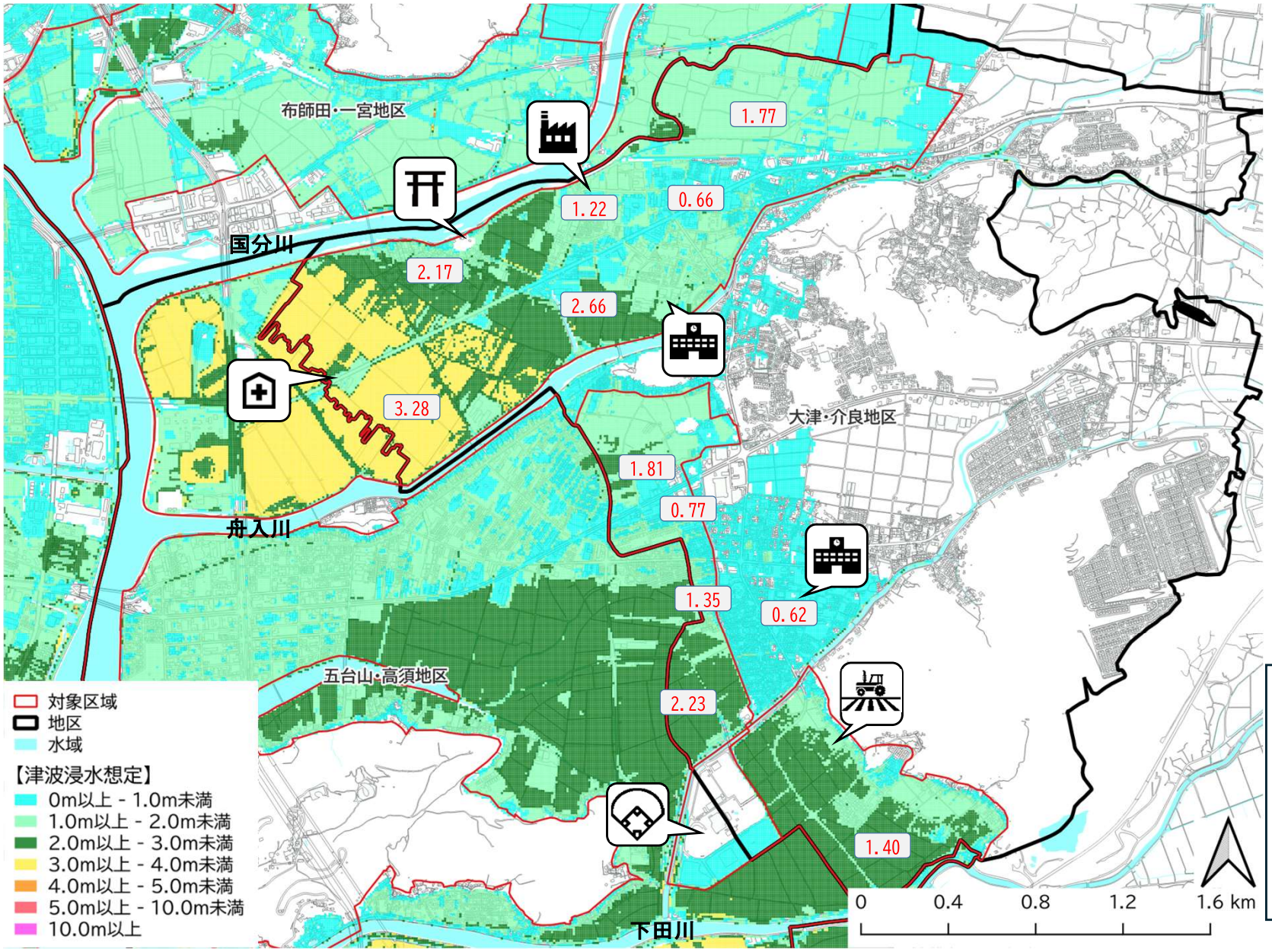
共通リスク[介良地区]

・住宅地等は震度７の揺れ、液状化の可能性が高い箇所が存在。
・農地は※浸水深２m以上の地区も存在。
・住宅地は津波浸水深が2m未満。

※L2津波を想定



高知市で想定される災害について～事前復興まちづくりの津波浸水想定





このシミュレーションは、堤防等の耐震整備が完了している区間及び耐震整備の計画がある区間が「破壊しない」と仮定した場合のものです。

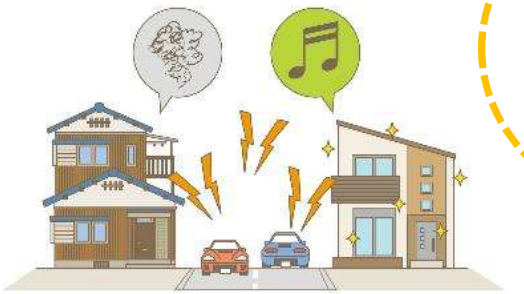
さぁ、みんなで話し合ってみよう！



ワーク１：介良地区のいいところ・残したいもの、普段の生活で困っていること
について、意見を共有しましょう。

被災後の住民への
メッセージ的なもの
ビジョン＝目指すべき姿
を考える





普段の生活で困っていることを復興パターンで解消する
＝より良い復興

例）つながる安心
自然と共に生きるまち

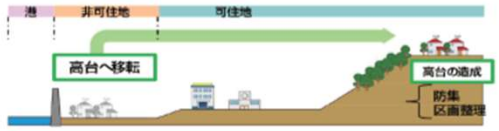
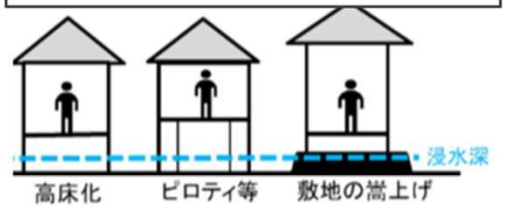
復興パターンへ反映

津波浸水深と復興の種類の関係性

移転・嵩上げ

2ｍ以上

現地再建

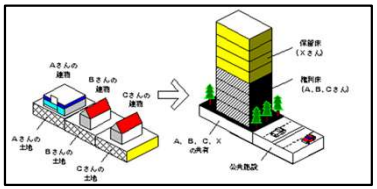
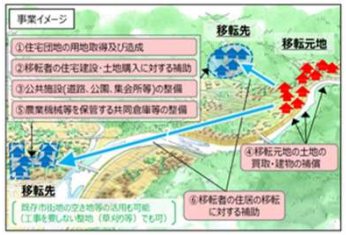
浸水深	考え方	復興の方向	復興パターン	パターンイメージ
３m以上 （２階以上）	大規模再編	**大規模な基盤・土地利用の整備が必要**	・高台移転 （元地は建築制限） ・大規模な嵩上げ	■高台移転イメージ 
２～３m未満 （１階天井）	改善復興	**嵩上げや道路等基盤の整備が必要**	・高台移転 ・嵩上げ ・街区単位等の嵩上げや建築規制等	■嵩上げイメージ 
１～２m未満	修復復興	家屋の再利用が可能 浸水深の低減、避難の安全性の向上 狭隘道路や木造家屋が密集する地区については、道路基盤整備等の検討が必要	・二線堤などの多重防御 ・嵩上げ	■現地再建・多重防御イメージ 
０．３～１m未満	現地復興	家屋の再利用が可能となる軽微な被害 避難対策と合わせた現地復興	・浸水深の軽減対策 ・既存の居住機能の確保	■現地復興イメージ【浸水深の軽減対策】  出典:水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン(令和３年５月、国土交通省　都市局 水管理・国土保全局 住宅局)
０～０．３m未満	現状維持	建物の被害は少なく、復興後の津波安全性は高いため現状維持	・現状の居住機能の維持を前提	

※　住宅の復興パターンについては、これまでの都市基盤整備が概成していることから、**原則現地再建を基本**とする。また、東日本大震災等での建物被災状況を踏まえ、**浸水深２m超を基準として、高台移転も復興パターンの選択肢として検討**する。

※　農地や商業地については現地再建を基本とするほか、浸水深２m以上のエリアも候補として立地を検討する。

【復興パターンの概要説明】

【復興パターンにおける事業手法の内容】

	現地再建（嵩上げ含む）	移転
ポイント	住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ➡道路基盤の整備と共同化、面的嵩上げ等による安全な居住空間の確保	甚大な被害が想定される箇所からの、高台や内陸への移転による、安全な居住地の確保・コミュニティの維持
主な活用事業	・市街地再開発事業、土地区画整理事業 権利変換による共同床の取得 ・災害査定による原形復旧  	・防災集団移転促進事業 元地の売却と安全な宅地の取得 
効果 （メリット）	・現在の生活再建、コミュニティの維持 ・土地利用の高度化、最適化(集約化) ・国等の支援措置の活用	・安全な場所への移転による生命や財産の安全性確保 ・国等における支援措置の活用
課題 （デメリット）	・合意形成の長期化、整備の長期化 ・減歩や権利変換などの負担 ・居住・経営形態の変化	・合意形成の長期化 ・コミュニティの分断 ・利便性の低下

復興パターンの検討～主要イメージ

【地区の被害特性】

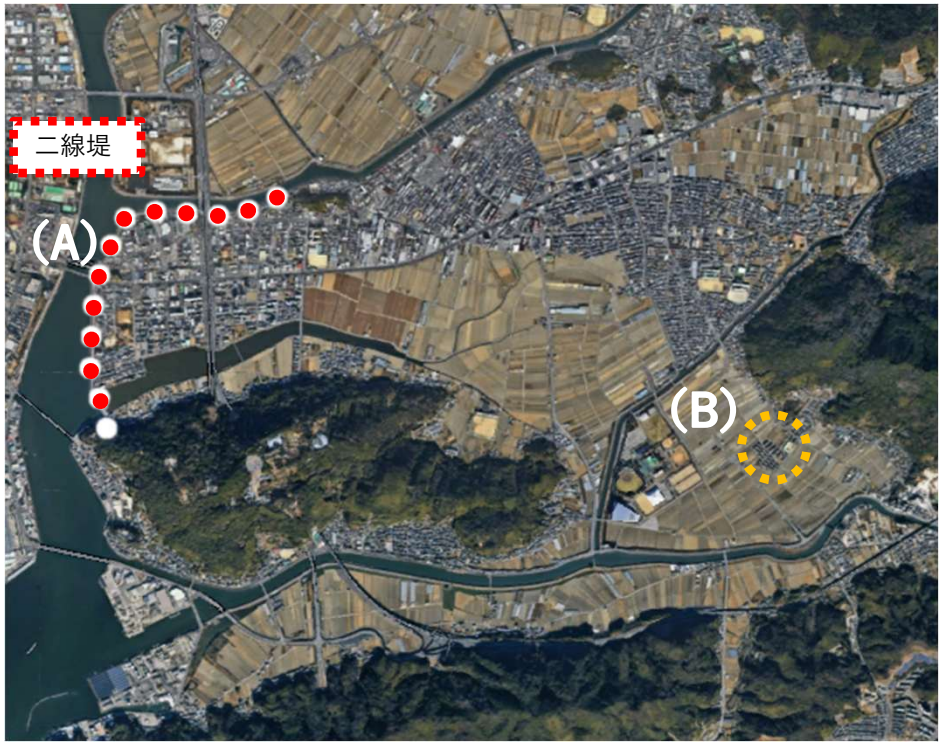
- 介良地区の浸水深が深い箇所はほとんど農地
- 浸水深２ｍ未満となる地域については個別嵩上げ等の現地再建を基本とする

復興ビジョン

自然と産業と住まいが調和する
安心とやすらぎのまち

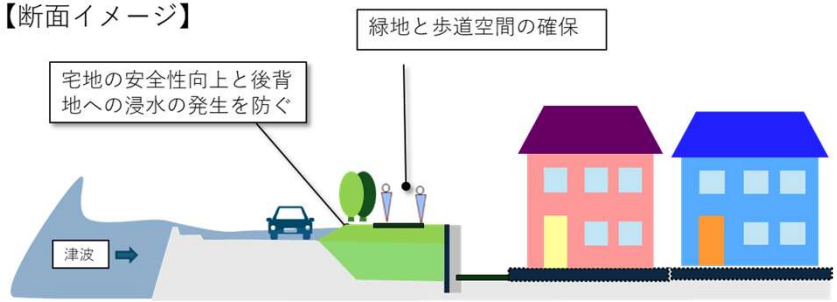
大津・介良地域は、地域を流れる川と里山、優良な農地など水と緑に恵まれるなかで、郊外の住宅地として急速に発展してきたまちです。津波災害からの迅速な生活環境の復旧を図るとともに、生活を支える基盤の向上と、優良農地の保全や里山・水辺などの豊かな自然環境との調和を図り、住みやすくやすらぎのあるまちづくりを進めます。

第１案
二線堤形成案



(A) ●●●● 二線堤整備

【断面イメージ】

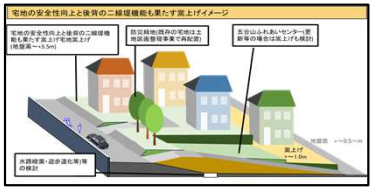
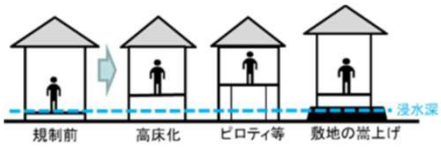


(B) ○ 災害公営住宅の検討



出典：大熊町HP（大熊町大川原地区災害公営住宅）

復興パターンのまとめ

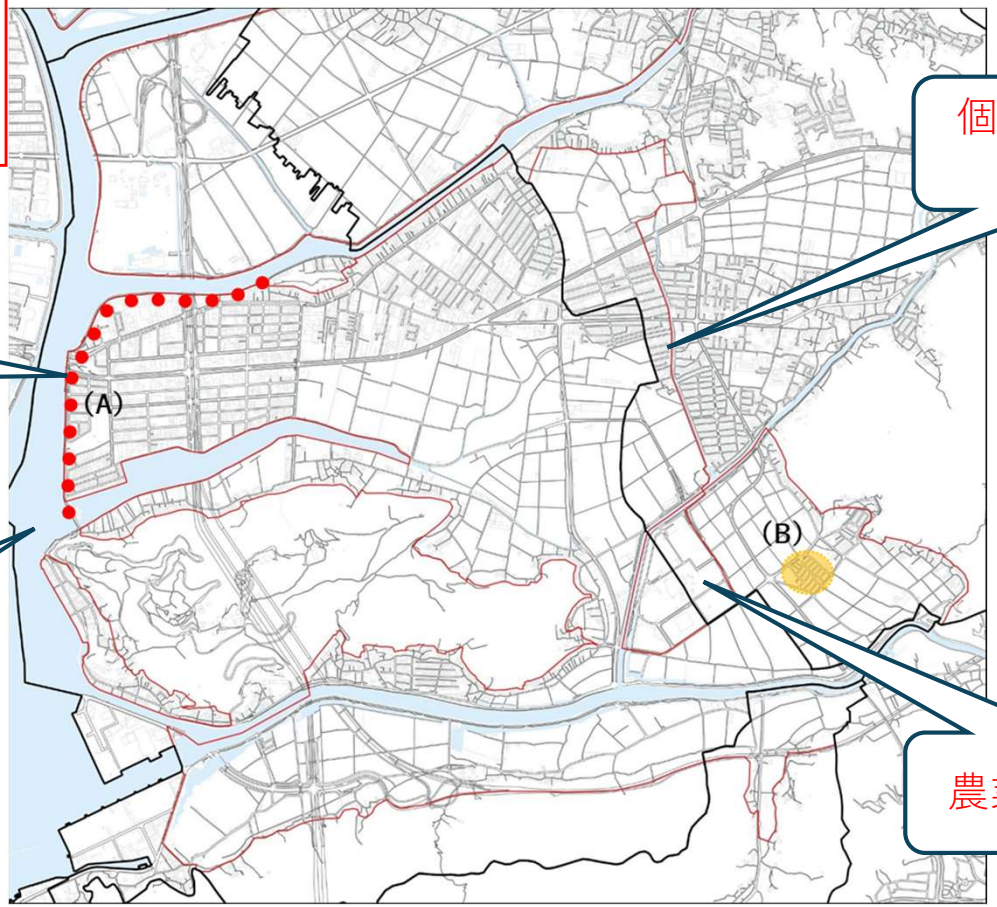
復興パターン	第１案　二線堤形成案	個人再建
ポイント	・住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ・二線堤による安全な市街地復興	・早期再建、コミュニティの維持
活用事業	・二線堤の整備 	・敷地の嵩上げ ・住宅の高床化、ピロティ化 
メリット	・広範囲での防災機能等の安全性向上	・個人再建による復興期間の短縮
デメリット	・整備の長期化 ・整備に影響する家屋の移転	・個人負担による再建意欲の低下
事業期間	△　※注1 （被災から７～８年）	―
個人負担	―	参考資料p.25～29　参照
事業費	約60億円	―

※注1：二線堤形成案の場合、個人による再建は嵩上げを必要としないため、再建期間が短縮できます。
備　考：面的整備を行わない区域における個別嵩上げについては、東日本大震災の復興事業において、行政的な支援実績があります。
液状化による家屋被害への再建費用は、原則個人負担となります。（過去の事例では支援実績あり）

さぁ、みんなで話し合ってみよう！

ワーク２：**復興パターンについて、意見を共有しましょう。**

- **復興パターンについて**
- **災害時危険な場所は？**
- **生活再建をイメージしてみよう**



全体を守れるため整備してほしい

個人再建できるか不安

近くに住んでいる人の影響はどうだろう？

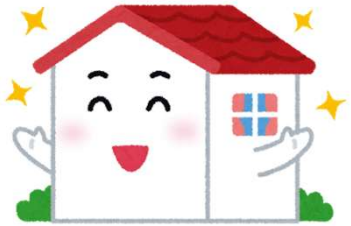
農業の復興は？



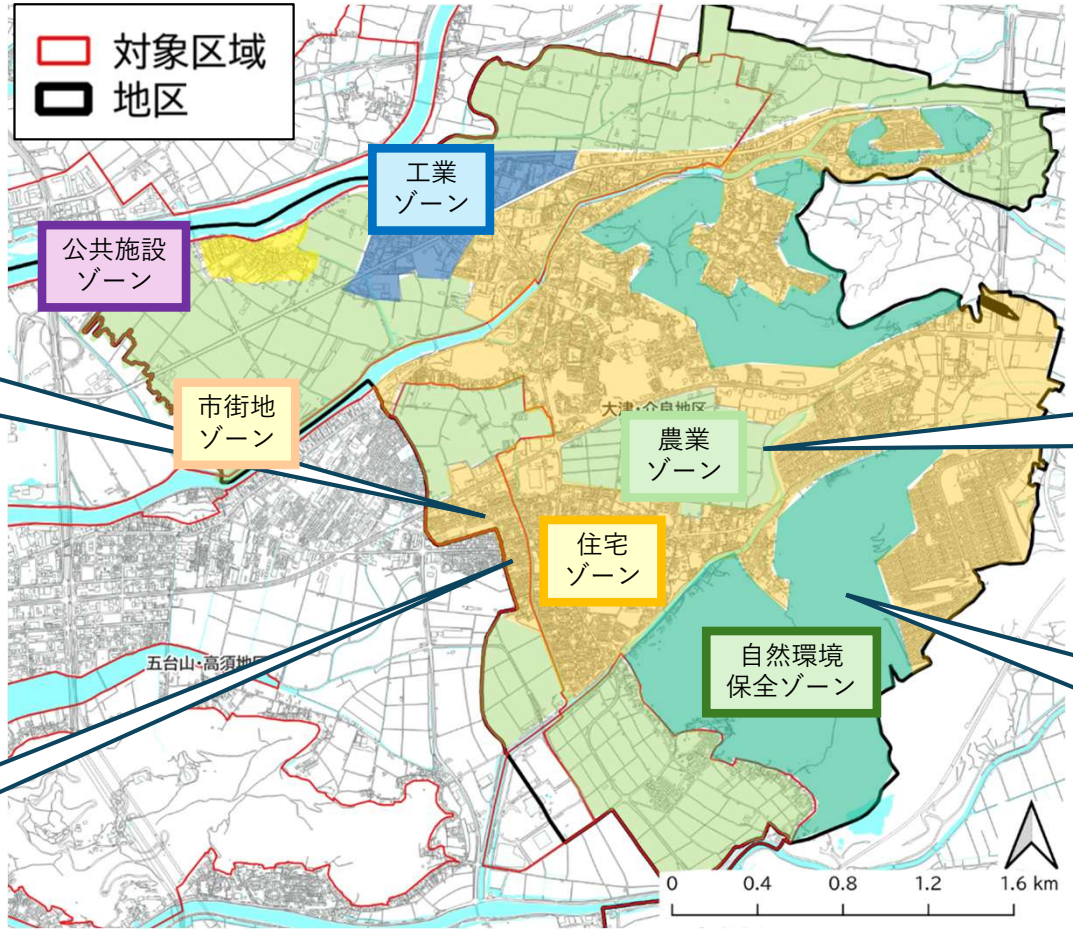
第２回へ意見反映

さぁ、みんなで話し合ってみよう！

ワーク３：楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。

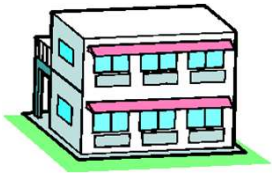


津波に強い
まちにしたい



農業の発展





丈夫な家に
住みたい

観光として
何かできな
いだろうか



第２回へ意見反映

次回開催のご案内

第１回ワークショップへのご参加ありがとうございました。
次回もご参加をよろしくお願いいたします。

日時：未定
開催場所：未定
} 決定し次第、案内いたします。

実施内容（予定）
- 第１回の振り返り
- 意見交換１：最終復興パターンについて
- 意見交換２：目指すべき姿＝ビジョンについて
- ワーク４　：速やかに復興するために必要なことについて
- ワーク５　：災害が起きる前からできること
- まとめ

ワークショップのほか、ホームページ上に掲載した意見投稿プラットフォーム、地域の窓口等でも意見を募集していますので、地域の方へのご周知のほどよろしくお願いいたします。

意見投稿用紙配置場所

・介良ふれあいセンター(設置予定)

意見投稿プラットフォームはこちら→